

転移性脊椎腫瘍に対する姑息的手術における合併症と生命予後、それに関連する因子の調査に関する臨床データの研究利用についてお願い

研究の概要・背景

我が国におけるがん患者新規発生数は年間およそ 101 万人と言われ、国民の二人に一人が生涯でがんと診断されています。脊椎転移はがん患者の 30%に発生し、5~10%の患者に神経圧迫に伴う神経症状が出現されるとされており、その結果生活動作や生活の質を低下させ、日常的な活動制限による治療方針の選択肢が限定されることから生命予後の悪化にも関与します。幸い最近の転移性脊椎腫瘍に対する姑息的手術の成績は悪くないとされていますが、その合併症は約 20%と一般的な脊椎手術に比しその発生率は高いと報告されています。手術に伴う合併症により術後のがん自体に対する化学療法や放射線療法の再開や開始に悪影響を与えうることから、合併症の発生はなんとしても避けなければならない問題であり、限りなく発生率を 0 に近づけねばならないと考えています。

そのために、合併症や生命予後に関与する因子が明らかになり、それに対する対策が奏功すれば、脊椎転移手術を受ける患者さんにとって福音になると考えています。

試料・情報の利用目的・方法（他機関への提供を含む）

カルテ（診療録）と画像所見（レントゲン、CT、MRI、骨シンチ、PET-CT など）から年齢、性別をはじめ診断や検査結果、治療の経過中の有害事象などについて登録し、解析します。なお、本研究は通常の臨床において診療録に記載されている情報のみを用いて行う観察研究ですので、患者さんに本研究のために特別な検査や処置をお願いすることはありません。

対象者・期間

当院で行われた転移性脊椎腫瘍に対する手術症例を対象とし、2014 年から 2026 年までを予定しています。

データ利用のお願いと申し出について

これらの臨床データは通常の診療で記録されたもので、患者さんに新たな負担はありません。また、個人を特定できるような状態でデータを使用することはありません。本研究の目的と、臨床データ利用に関するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、本研究に関するさらなる説明をご希望の方、また、本研究において臨床データの利用を希望されない方は下記問い合わせ窓口にご連絡ください。研究不参加を申し出られたとしても、患者さんが不利益を受けることは一切ありません。

【お問い合わせ先】

長岡赤十字病院

担当医師：三浦一人 脊椎脊髄外科

〒940-2085 新潟県長岡市千秋 2-297-1

電話：0258-28-3600(代)、FAX：0258-28-9000(代)